

シラチャ校だより

泰日協会学校
シラチャ校
1, 2, 10



見タイ 行きタイ 学びタイ 五感で感じる収穫旅行 ～第1回シラチャ校中学部2年生修学旅行～

世の中にあるもの、起きることの全てが、何かの答えを導き出すためのヒントである

『見タイ 行きタイ 学びタイ 五感で感じる収穫旅行』というスローガンを掲げ、1月19日(火)～21日(木)までタイ北部(スコートイ県、ターク県、ランパーン県、チェンマイ県)を巡る修学旅行に行ってきました。

“日常生活のほんの些細なことにも、人生を豊かに生きていくためのヒントが隠れているものである”とよく話をするのですが、そのヒントに気づかず、見過ごしてしまっていることが多いのが実状です。学校生活はもちろん、普通の生活においても、自分の目で、耳で、心で人生に役立つヒントを見逃さないようにすることで、生き方が変わってくるものです。この2泊3日の修学旅行はまさに生きるためのヒントが凝縮されていたように思います。ただ単に“楽しかった修学旅行”だけに終わらせないためにも、帰ってきた今、改めて自分なりにヒントを見つけ、今後の生き方を模索して行ってほしいところです。

タイの伝統文化・芸術にふれる

1日目、スコートイ県のスワンカローク地方をまず訪れました。そこではスコートイ王朝より続いている伝統的な「サンカローク焼き」の絵付けに挑戦しました。思い思いの絵をのせながら、脈々と受けつがれている伝統文化にふれることのできた時間となりました。



次に訪問したのはスコートイ芸術学校です。タイの古典楽器を一から教えてもらい、最後には生徒全員で「ローイクラトン」を合奏しました。今も変わらぬ芸術がここに残されています。



世界遺産を肌で感じる

1日目最後は、スコートイ歴史公園の自転車ラリーです。勝負の決め手は知力・体力・時の運ですが、何よりも、活動を通してそれぞれの絆を深められたように思います。と同時に、一つひとつの遺跡を自転車でゆっくり回ること、世界遺産から見えてくる、タイの歴史的時空を肌で感じることであったひとときでした。



何を経験したかよりも、何を経験から感じたかが大切

2日目、ターク県に移動し、山岳少数民族の学校を訪問しました。「バーナムスー校」と呼ばれるこの学校は、モン族、リス族、黄ラフ族、黒ラフ族などいろいろな山岳民族が一緒に学校生活を送っています。



それぞれの民族の伝統的な遊びを紹介してもらったり、村を案内してもらったりしながら交流をすすめていきました。子どもたちの笑顔を見てると、物やお金はあまりなくとも、心は私たちより何十倍も豊かな印象を受けます。しかし、山岳少数民族が抱えている課題は実は容易なものではありません。笑顔の交流で終わらせてしまうのではなく、そこからタイの現実、物事の本質に目を向けていく必要があります。

“かわいそう”で終わらせない

3日目、ランパーン県の象病院を訪問しました。地雷で足を無くした象を見て、“かわいそう”というだけでは終わらせられない問題がそこには潜んでいます。タイ全土、地球規模で考えた取り組みが求められています。



バンコク校の中学部2年生約190名と行動をともした2泊3日。集団行動でいい刺激を受けると同時に、新しい交流もたくさん生まれました。また、日本ではできない体験を積むことができた修学旅行となりました。それだけでなく、このタイという異国での修学旅行は、子どもたちに今後の生き方を指し示してくれるきっかけともなったはず。国、人種、民族の違いを超えて、同じ地球に住む、同じ地球市民として、今後どのような生き方をしていくべきかといったような、広い視野で物事を見ていく力が養われつつあるように感じます。

世界の人のたちの平和の架け橋となれるような、そんなキーパーソンになっていってくれることを願います。

中学部2年担任 梶原 隆裕